

今月の
いいね!

青空を泳ぐキアマダイ



キアマダイの変わりコイのぼり（中央）

【名前】

キアマダイ（変わりコイのぼり）

【すむ場所】

博物館前の青空

【大きさ】

全長約 4m

【当館で見られる場所】

博物館前の広場（天気の良い時）
2021年5月9日まで

【特ちょう】

2021年に仲間入りした変わりコイのぼりです。染物職人さんを悩ませたのは体色の淡いピンク色と所々にある黄色でした。風が通ると大きな背びれがきれいになびくのが特ちょうのコイのぼりです。

【担当学芸員から一言】

子ども達の健やかな成長と一刻も早い感染症の終息を願い、広場にあげます。キアマダイの変わりコイのぼりも微笑んでいるように見えます。(S.T)

トピック

ホンソメワケベラのお掃除

ホンソメワケベラは他の魚の寄生虫を食べることで有名で掃除魚とも呼ばれます。この行動は「共生関係」として水族館でもよく紹介され、実際に水槽で観察することもできます。当館でも数か所で観察することができますが、一番のおススメは大きなクエの入った水槽です。クエの周りをウロチョロしながら、時には大きな口の中に入って寄生虫などをついばむ姿が見られます。体の小さなホンソメワケベラと巨大なクエのギャップのある様子が、なんとも言えず微笑ましく感じられます。(K.Y)



クエの顔を掃除するホンソメワケベラ



ハナミノカサゴ

山の緑も日に日に濃くなり、気温も上がり過ごしやすくなってきました。野山では、様々な花が見られるようになってきました。実は、海の中にも花の名前の付く生き物があり、当館では現在約20種類の花の名前が入った生き物を飼育しています。今回は、そんな海の花の名前が付く海の生き物を、いくつかご紹介しようと思います。

【ハナミノカサゴ】

名前に花とつく魚です。その名の通り見た目も華やかな魚です。しかし、その名前とは裏腹に、毒の棘を持つ魚としても知られ、刺されると激しい痛みを襲われます。そのため、本種の水槽を掃除するときには刺されないように細心の注意をはらいます。本種によく似た仲間にミノカサゴがありますが、本種は尾鰭の斑状の模様が目立つことなどで見分けることができます。



サクラの仲間とサクラダイ

【サクラダイ】

サクラと言えば静岡では伊豆の河津桜が有名ですね。また、静岡でサクラの名前の付く海の生き物と言えばサクラエビを真っ先に思い浮かべるかもしれませんが、サクラダイも伊豆のダイビングや水族館などではおなじみの魚で、水中できれいな姿を見せてくれます。本種は名前に「サクラ」の他に「タイ」とついていますが、これは俗に言うあやかりタイの一つで、実はマダイとは異なるハタのグループに属します。また、性転換する魚とも知られており、雌から雄へ性転換するという生態を持っています。

【ヤマブキスズメダイ】

ヤマブキの名前の付く魚です。植物のヤマブキは、暖くなる4~5月頃に山吹色の語源ともなった黄色い花を咲かせます。名前の通り、本種の体色も山吹色をしており、英語でも golden damselfish (金色のスズメダイ) と呼ばれています。スズメダイの中では比較的大きくなり、大人になると15cmほどになります。日本では、主に琉球列島以南のサンゴ礁域で見られる魚です。



ヤマブキとヤマブキスズメダイ

【ウミアザミの仲間】

アザミと名前の付くサンゴの仲間です。植物のアザミは、花は紫色の綺麗な花を咲かせますが、葉などに鋭いとげを持ち、うっかり触ってしまうと手にとげが刺さりとても危険です。しかし、ウミアザミの仲間の体は柔らかく、造礁サンゴのような骨軸がありません。当館では、飼育環境がよく合うのか水槽一面を覆いつくすほど増えることもあります。

今回紹介した生き物の他にも、ハナビラクマノミやオグロクロリハゼ、キクメイシなど花の名前の付く生き物を展示しています。ぜひ、暖かくなってきたこの季節に、水族館でも色とりどりの花たちを探してみてください。(Y.I)



アザミの仲間とウミアザミの仲間

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。